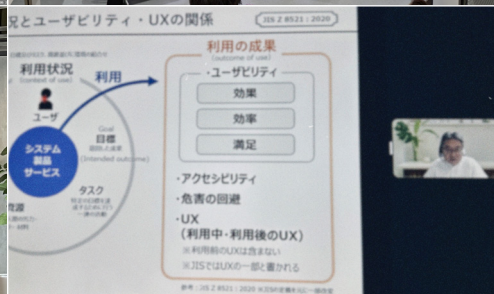




2024 Annual Report

Human
Centered
Design
Organization



アニュアルレポート2024 2024年度 (2024年4月1日～2025年3月31日)

特定非営利活動法人
人間中心設計推進機構



目次

HCD-Net 設立20周年に寄せて：副理事長からのメッセージ	1
広報社会化事業領域	3
教育事業領域	4
ビジネス支援事業領域	5
研究事業領域	6
関西支部	7
東海支部	8
HCD 専門資格認定センター	9
HCD 倫理規定検討ワーキンググループ	10
ウェブワーキンググループ	11
ピックアップイベント	12
イベント一覧	14
決算報告 2024年度 活動計算書	15
2024年度 計算書類の注記	16
2024年度 貸借対照表	17
2024年度 財産目録	18
組織図／正会員数推移	19
機構役員一覧／賛助会員一覧	20

本アニュアルレポートに記載の人物名はすべて敬称略としています。
また、会社名、各製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

HCD-Net 設立20周年に寄せて： 副理事長からのメッセージ

五十音順

井登友一(株式会社インフォバーン)

今年、HCD-Netは設立20周年を迎えます。日本の産業界におけるこの20年は、技術主導から人間(ユーザー)中心へと製品・サービス開発のパラダイムが大きく変化した時代だったといえるでしょう。

私自身は20年の歴史の途中から参加させていただいた者として、これまで人間中心デザインの考え方と実践の啓発、普及に尽力されてこられた先達たちに対し、深い尊敬の念を抱いております。

変化の激しい現代においては、20年という歳月もあっという間に過ぎ去るように感じられるかもしれません。しかし、ふと立ち止まって振り返ってみると、驚くほどの出来事や変化があったことに気づくものです。

人間中心デザインという概念の提唱者であるドナルド・A・ノーマンは、著名な『誰のためのデザイン?』(増補・改訂版、新曜社、2015年 ※日本語版初版1990年、原著初版1988年)の刊行から30年余りを経て、一昨年『より良い世界のためのデザインー意味、持続可能性、人間性中心』(新曜社、2023年 ※原著出版も同年)を出版し、自身が提唱した「人間中心デザイン(Human Centered Design)」を自己批判しました。

「これからのデザインは『人間性中心デザイン(Humanity Centered Design)』へと向かうべきである」というドナルド・A・ノーマンの指摘は、HCDの専門コミュニティに参画する私たちにとって、一度立ち止まってこれまでの道のりを振り返り、これから進むべき方向を見つめ直すきっかけを与えてくれたように感じます(※)。

この20年が積み重ねてくれた地盤をしっかりと踏みしめながら、次の20年に向けて軽やかに新しい一歩を歩み出しましょう。

※ 関連した内容をHCDコラムにて公開しています

<https://www.hcdnet.org/hcd/column/hcd-2130.html>

長谷川敦士(株式会社コンセント)

このたび、HCD-Netは設立20周年を迎えました。

思えば、設立当初はまだ人間中心デザインの普及もままならず、私たちの活動は不完全なユーザビリティを向上させることをまず目標としていました。

そして20年がたち、デザインだけでなく社会背景も大きく変わりました。ITを用いたサービスやアプリはすでに産業や生活のメインストリームとなり、もちろん課題は残るものの、基本的なユーザビリティエンジニアリングは格段の進歩を遂げ、そのノウハウも広まりました。

そういった中で、私が最も大きな変化と感じているのは、行動科学などの研究の深まりによるデザインの進化です。不完全なユーザビリティをいかに向上させるかという課題から一歩進み、今や私たちは、人をコントロールしうるデザインさえ可能な段階に来ています。

そのような状況下で、誤った方向への誘導をいかに避けるか、そしてそもそも人をコントロールすることが倫理的に許されるのか、といった点を議論する段階に突入していると考えます。

これは日本に限らず、グローバルな課題です。私たち人間中心設計推進機構は、プロモーションという段階を超えて、人間中心デザイン自体を捉え直す段階に来ていると思います。このタイミングで、このような形でコミュニティが存在することは、日本にとっても大きなアドバンテージです。

次の20年と言わず、これからの活動においてこそ、ぜひ議論を深めていく必要があります。引き続き皆さんと考えていきたいと思っています。

水本 徹(株式会社島津製作所)

このたび、HCD-Net は設立20周年を迎えることができました。この節目をともに迎えられたのも、長年にわたって支えてくださった会員・賛助会員の皆様のお力添えあってのこと、心より感謝申し上げます。

この20年で、「人間中心設計(HCD)」という考え方は、UXやサービスデザインといった分野を通じて、少しずつ社会に広まり、ビジネスや教育、行政の現場でもその価値が認識されつつあります。これは、本当に素晴らしいことです。

一方で、私たちの身のまわりでは、いまだに「これは誰のことを考えて作られたのだろう」と首をかしげるような製品やサービスに出会う場面も少なくありません。アクセシビリティやユーザビリティといった基本を、社会全体にしっかりと根づかせていく必要があると強く感じています。

HCD-Netの活動はこれまで、東京・大阪・名古屋といった都市圏や、情報・IT・製造など特定の分野に関連する業界を中心としたイベントが多くなりがちでした。そのため、他の地域や他の多くの業界では、HCDの考え方がまだ十分に届いていないと感じる場面もあります。

私自身、最近では地域の現場を訪ね、医療・介護・食品・農業・漁業・観光など、製造業以外の多様な業界で働く方々と対話する機会が増えてきました。その中で改めて実感するのは、「人間中心の設計」が求められているのは、まさにこうした現場であるということです。課題が山積する現場にこそ、HCDの力が必要とされているのだと感じています。

これからのHCD-Netは、「拡げること」に力を入れていきたいと考えています。地理的にも、業界的にも、もっと広く。HCDの考え方が必要とされる現場に、確かな知見と方法論を届けられるよう努め、現場の方々とともに学び、ともに進むネットワークを築いていきたいと願っています。

HCDを実践する人が、さまざまな地域や業界にいて、役所にいて、学校にいます。そんな未来をともに描きながら、力を合わせて前に進んでいきましょう。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

吉武良治(芝浦工業大学)

HCD-Netは、2024年8月30日付で日本学術会議の協力学術研究団体に指定されました。これは研究事業部の皆様をはじめとする多くの方の尽力によるものであり、設立当初より研究発表会の開催を継続し、論文誌を発行し続けてきた賜物です。設立20周年を迎えるにあたり、学術団体として認められたことは、会員や関係者にとって喜ばしく、大きな意義のある出来事であり、マイルストーンとなりました。

HCD-Netでは、2009年から専門家認定事業を担っており、すでに1,000名を大きく超える専門家を認定し、多くの実務家が活躍する団体であることは広く認知されてきました。さらに学術的な研究活動も社会的に認知されたことで、次の20周年に向けての活動の広がりが期待できます。

社会における実践と研究はどちらも重要であり、両者が互いに補完しあう関係であることはいうまでもありませんが、これからの活動を考えるために少しでも具体的な役割の違いと関係を確認してみたいと思います。

- 「実践」：顧客価値の創出であり、問題解決、成果達成が重視されます。
- 「研究」：理論構築、知識の体系化、新たな知見の創出などを目的とした活動が多く、一般化や再現性を求められることが多いと言えます。

研究がビジネスを支える構図はよく見られる一方で、現場の課題が研究の方向性や価値を高めるヒントを与えてくれます。すなわち、これらは循環する構図なのです。

実務家か研究者かと問われることもありますが、それはどちらに主たる軸足を置くかの違いであり、誰もが両方の側面を持ちながら活動しているはずで、日頃の活動においてもできるだけ両者を意識してみるとわくわくしてきませんか。

HCD-Netでも年に2回の研究発表会を開催しています。これまで参加されたことがない方も、頻繁に参加されている方も、設立20周年を契機に、実践と研究の好循環という合言葉を少しでも意識して参加してみたいはいかがでしょうか。

また研究発表会でお会いしましょう。

広報社会化事業領域

広報社会化事業部は、HCD-Net全体の広報機能を担う部門として活動しています。主な業務として、HCD-NetフォーラムやHCD-Netサロンといったイベントの企画・運営、HCD-Netの活動をまとめたアニュアルレポートの作成、HCDに関する優れた取り組みを表彰するHCD-Net AWARDの運営などが挙げられます。さらに、会員向けパンフレットの発行や、HCDライブラリをはじめとする書籍の出版も担当しています。

2024年度の活動

● HCD-Netフォーラム

今年度のHCD-Netフォーラムは、11月30日～12月1日にかけて2年ぶりに開催されました。フォーラムでは3つの理事会企画と4つのフォーラム委員企画がマルチトラックで実施され、HCD研究発表会との同時開催により、研究的・実務的な両面からHCDを体験できる場となりました。

フォーラム開催にご尽力いただいた大会長、フォーラム委員、登壇者の皆様に深く感謝申し上げます。2025年はHCD-Net設立20周年にあたるため、広報社会化事業部としては、HCD-Netの活動を総括し、会員が集う場として、より盛況なフォーラムを目指して尽力いたします。

※ 詳細は、『HCD-Netフォーラム2024: デザインと倫理開催レポート』をご覧ください
<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2212.html>

● HCD-Net AWARD

今年度はHCD-Net AWARDの開催は見送られましたが、代わりに昨年度の受賞事例共有会が2回開催されました。

・1.11月4日: HCD-Net AWARD 2023 最優秀賞受賞者によるワークショップ

※ 詳細は、『HCD-Net AWARD 2023 最優秀賞「ボードゲームを活用したUXリサーチ教育ワークショップの開発」の体験型ワークショップ開催レポート』をご覧ください
<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2182.html>

・2.11月30日: HCD-Netフォーラム HCD-Net AWARD受賞者セッション

過去のHCD-Net AWARDでも受賞者の取り組みを紹介してきましたが、今年度も同様に事例共有を行いました。今後もHCD-Net AWARDは、単なる表彰にとどまらず、優れた取り組みを広く紹介する活動を継続していきます。

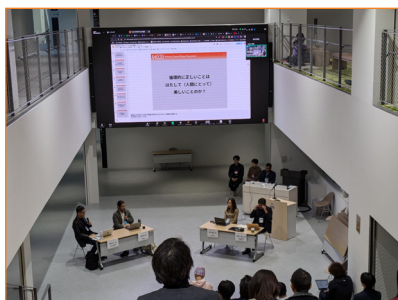
※ 詳細は、『HCD-Netフォーラム2024開催レポート』をご覧ください
<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2212.html>

● 次回のHCD-Net AWARDについて

広報社会化事業部では、2024年度にHCD-Net AWARDの仕組みを見直しました。これは、最終的に賞を受賞した事例に注目が集まりがちな現状を踏まえ、一定の評価を得たものの、受賞には至らなかった共有価値の高い事例も積極的に発掘・発信し、より多様な取り組みが社会に広まることを目指すものです。

理事会との協議の結果、HCD-Net AWARDに「グッドプラクティス」という認定制度を新設し、2025年度から開始します。詳細については、HCD-Net公式サイトをご覧ください。

※ 詳細は「HCD-Net AWARD 2025 応募要項について」をご覧ください
<https://www.hcdnet.org/practice/award/HCD-Net%20AWARD%202025/entry-2252.html>



HCD-Netフォーラム: デザインと倫理・基調セッション



HCD-Netフォーラム: 点字ブロック歩行ゲーム



HCD-Net AWARD体験型ワークショップ



教育事業領域

教育事業部のミッションは、HCD/UXDに関する知見の体系化と、その教育機会の提供です。ある程度まとまった知識や学び方を伝えるセミナーを企画・運営しています。また、学び合うための仕組みを試行しています。

2024年度の活動

●【学びをつなぐ】

例年に引き続き、UXデザイン、ユーザビリティ・インスペクション、ユーザビリティテストに関するセミナーを実施しました。
 ・「UXデザイン連続セミナー」では、教育事業部のメンバー（多くは過去のセミナー受講者）がチューターを担当しました。セミナーのサポート活動を通じて、自身の学習を実践的に振り返る機会となりました。
 ・「エキスパートレビュー」セミナーでは、HCDの実践者が理解しておくべきユーザビリティの基本と、評価のための基礎を理論と実践の両面から学ぶことができました。
 ・「現場でできるユーザビリティテスト 演習編」セミナーでは、具体的な製品を評価対象に、講師が設計したユーザビリティテストにおける「モデレーター（司会進行役）」と「観察者」を体験しました。

※ それぞれの詳細は、以下からご覧いただけます

「2024年度 UXデザイン連続セミナー」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2158.html>

「エキスパートレビュー～ユーザビリティの専門知識に基づく評価を学ぶ～」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2193.html>

「現場でできるユーザビリティテスト 演習編」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2181.html>

教育事業部では、これらのセミナーのように数年にわたり毎年開催される講座が増えてきており、今後もより一層HCD学習のための学習コンテンツの定番化を目指したいと考えています。

- ・「UXデザイン連続セミナー（全6回）」井登友一
- ・HCDコンピタンス知識編「専門知識に基づく評価・概論」伊藤泰久
- ・「エキスパートレビュー～ユーザビリティの専門知識に基づく評価を学ぶ～」伊藤泰久
- ・ユーザビリティテストははじめの一歩 入門編 和井田理科
- ・「現場でできるユーザビリティテスト 演習編」下郷雅子

※ それぞれの詳細は、以下からご覧いただけます

「2024年度 UXデザイン連続セミナー」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2158.html>

「HCDコンピタンス知識編「専門知識に基づく評価・概論」」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2192.html>

「エキスパートレビュー～ユーザビリティの専門知識に基づく評価を学ぶ～」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2193.html>

「ユーザビリティテストははじめの一歩 入門編」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2179.html>

「現場でできるユーザビリティテスト 演習編」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2181.html>

●【学び合う】

6月には、オンラインツールoViceを使った交流イベントを実施しました。テーマ別のテーブルでは活発な対話が行われていました。

- ・「ワイワイしましょう！人間中心設計の専門家・スペシャリストや会員とのオンライン交流会～HCD-Net新歓」

※ 詳細は、『「ワイワイしましょう！人間中心設計の専門家・スペシャリストや会員とのオンライン交流会～HCD-Net新歓イベント～」開催レポート』でご覧いただけます
www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2140.html

●【学びをひろげる】

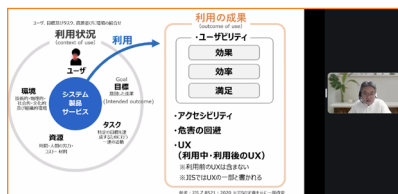
2024年度は、生成AIを用いた会話分析ツールを活用し、質的データ分析手法であるKA法を体験・実践するセミナーや、ワークショップのデザインに関する考え方と実践法をワークショップを通して学ぶセミナーなど、新しい領域のセミナーも企画しました。2025年度も引き続き、HCDの活用領域を拡げる新たな学習機会づくりにチャレンジしたいと考えています。

- ・「90分で価値探索！生成AIを活用した高速KA法ワークショップ（2回開催）」米山弘恭
- ・「HCD実践者向けワークショップで学ぶワークショップデザインセミナー」上林 昭（講師）山田正洋（サブファシリテーター）高橋英里（グラフィックレコーディング）

※ それぞれの詳細は、以下からご覧いただけます

「90分で価値探索！生成AIを活用した高速KA法ワークショップ」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2180.html>

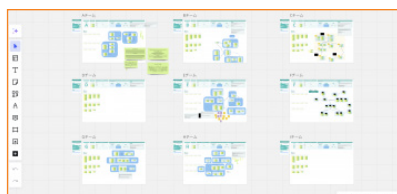
「HCD実践者向けワークショップで学ぶワークショップデザインセミナー」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2219.html>



エキスパートレビュー 演習編の様子



UX連続セミナーの様子



90分で価値探索！生成AIを活用した高速KA法ワークショップの様子

ビジネス支援事業領域

ビジネス支援事業部はHCD専門家のスキルを発揮できる環境づくりおよび、HCD関連ツールの開発・提供を目的に、以下の運営委員会と5つの専門委員会で活動しています。

2024年度の活動

● ビジネス支援事業部運営委員会(仮説検証ブートキャンプ実行PJ)

EdgeTech+ 2024併催イベント「仮説検証ブートキャンプ」を共催しました。これは、(一社)組込みシステム技術協会(JASA)主催による組込みシステム技術領域における人材育成プロジェクトで、8月のオンライン学習から始まり、9月から11月に3日間のフィールドワーク・ワークショップを経て、11月22日にパシフィコ横浜 EdgeTech+2024の会場で企画プレゼンテーションを行いました。



Day2: 明電舎大崎会館の様子



Day3: NEC本社の様子



EdgeTech+2024の様子

● HCD マインドセット醸成委員会

あらゆる企業に対してHCD マインドセットの普及を目指し、検討を重ねています。企業のHCDに対する認知度に差があるため、HCDを意識している企業へのマインドセット導入方法と、HCDを認知していない企業へのマインドセット導入方法を分けて検討しています。

● HCD 導入パターン委員会

HCD 組織導入のノウハウをパターンランゲージ形式でまとめた資料「HCD 導入パターン初版」を、2024年9月にオンライン公開しました。また、2024年度より、ワーキンググループから委員会へ改組し、「HCD 導入パターン」の継続的改善を進めています。

※ 詳細は、『「HCD 導入パターン」初版公開 HCD 組織導入に係るノウハウをパターン・ランゲージ化』をご覧ください

https://www.hcdnet.org/hcd/column/materials_01/hcd-2051.html

● 自動運転社会における HAI(Human AI Interaction)検討委員会

人間中心 MaaS ビジネスの社会実装・協創活動の加速に寄与することを目標に活動しています。茨城県境町で進めている自動運転車両の社会実装や外向き HMI の車両搭載試験などの現地調査を通じて、自動化システムが交通ルールや慣習を含めた社会環境の中で、いかに振る舞うべきかを考慮した HCD の実装を目指して活動しています。

● 「利用時品質」普及委員会

5月には委員会設立10周年記念イベント「利用時品質の最前線」を開催しました。7月から9月にはSQuaRE 解説セミナー(全3回)を開催しました。9月から1月には東海大学辛島研究室ゼミ(全12回)にて、企業の採用サイトを題材に産業共通様式(CIF)に沿ったユーザビリティの評価と改善策の提案を試みました。



委員会設立10周年記念イベントの様子

● HCSA(Human Centered System Architecture)委員会

ユーザビリティやセキュリティ等の多要素を考慮した設計、および SoS における HCD の推進に資するツールの開発・提供を行うべく、各国で提供されているツールキット等も参照しながら、ワークショップの企画や標準ガイドライン(サービスデザイン)に関する勉強会を行っています。



研究事業領域

研究事業部のミッションは、人間中心設計に関する研究活動の活性化を図ることです。具体的には研究成果を発表する場として、研究発表会を年2回開催するとともに、機構誌を発行しています。また、機構誌に掲載する研究論文の査読プロセスを担う編集委員会を運営しています。さらに、研究活動の場としてSIGをサポートしています。

2024年度の活動

かねてよりの申請が認められ、HCD-Netは2024年8月30日付で日本学術会議の協力学術研究団体に指定されました。協力学術研究団体としての指定はこれまでの実績を根拠として、HCD-Netが学術団体である学会として認められたことを意味します。学術面でのHCD-Netの社会的影響力の向上などの、多くのメリットがあります。

● HCD 研究発表会

春季(6月8日)冬季(11月30日・12月1日)ともに、芝浦工業大学豊洲キャンパスおよびZoomを用いたオンサイト・オンラインのハイブリッドイベントとして開催されました。

【春季】

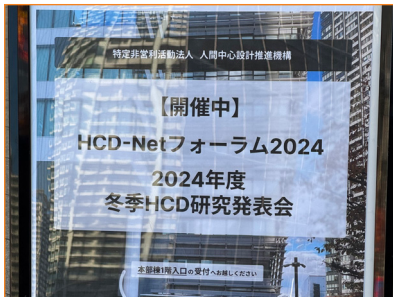
23件の口頭発表と14件のポスター発表がありました。

- ・優秀講演賞：「日本の古典文学に学ぶUIデザインガイドライン ～徒然草編～」(水本徹/人間中心設計推進機構、伊藤由莉)
- ・優秀ポスター賞：「HCDサイクルを用いたマルチスポーツ スクール「MISPO!」サービス改善の事例研究 ～企業における新規事業でのHCDの実践を通して～」(稲毛正也/ミズノ株式会社)

【冬季】

19件の口頭発表と26件のポスター発表がありました。

- ・優秀講演賞：「人間中心設計の援用による多種共生的まなざしの社会実装 ― 鶏中心主義的プロセスによる鶏舎設計の事例から」(前田碧/bak21g・渋谷崇史/北海道大学大学院)
- ・優秀ポスター賞：「調理家電の音声インターフェースに関する実験と考察」(高倉由圭・和氣早苗/同志社女子大学)および「効果的なMR教材の検討ー立体図形の切断問題を題材にー」(川島瑞貴・曾根麻舟・吉武良治/芝浦工業大学)



HCD 研究発表会の案内看板



口頭発表の様子



授賞式の様子

● 機構誌を発行

機構誌を2号(20巻2号、21巻1号)発行し、それぞれ9編(原著論文7編、資料(事例)1編、資料(展望)1編)、8編(原著論文2編、短報2編、資料1編、資料(事例)3編)の査読付き論文を掲載しました。

※ 詳細は、J-STAGEでご覧いただけます

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/hcd/-char/ja>

● SIG 活動

今年度、ダークパターン研究SIG(SIG-DP)が発足しました。近年、消費者にとって不利になるようなインタフェースデザイン、いわゆるダークパターンに注目が集まっています。そこでこのSIGでは、情報の消費者、「受け手」側を守るデザインについての研究を進めていく予定です。

この他に、論文執筆に慣れない皆さんを支援するメンター制度の運用を開始しました。論文執筆や研究発表に不安がある方は、ぜひ、ご相談ください。

関西支部

2013年1月25日の設立以来、関西を始めとする首都圏以外の地域において、HCDの実践を促進する目的でセミナーやワークショップを企画・主催しています。関西支部では、HCD-Netの年次活動である関西フォーラムをはじめ、地域で参加できるさまざまなイベントを開催しています。2024年度からは関西支部の活動とは切り分けて地方啓発活動を開始しました。

2024年度の活動

● 関西支部の活動

2024年の関西フォーラムは、対面参加型のワークショップからはじまり、講演3件、講師を交えた交流会まで1日を通して「体験したからこそわかる貴重な機会」となりました。またショールーム見学会やデザイナーどうしの交流会なども実施し、関西でのリアルな体験と交流の機会を作っています。

【イベント】

2024年

8月 大学と地域・企業との連携プロジェクトの進め方 ～PBLで開く学びとイノベーション～
子供むけワークショップ

9月 HCD-Net関西フォーラム『おもてなしと多様性のデザイン』
ショールーム見学会(MORISAWA SQUARE)

12月 子供むけワークショップ

2025年

2月 日米デザイナー2人によるCESレポート報告会



HCD-Net関西フォーラムの様子

● 地方および他分野への普及拡大

2025年度重点方針のひとつとして、「地方および他分野への普及拡大」を掲げています。目標は、人間中心設計の理念と手法を未開拓の地域や分野へ展開し、地域間の格差を是正するとともに、多様な産業への浸透を図ることです。

【重点施策】

- ・九州支部および北海道支部の立ち上げ準備
- ・各地域でのセミナーやワークショップの開催頻度の拡大
- ・地域コミュニティとの協力体制構築を通じた持続可能な普及活動
- ・新規業界や学会、コミュニティとの連携の検討

● 九州支部および北海道支部の立ち上げ準備

支部を立ち上げるには、地元でコミュニティの中心となって活動してくれる方の存在が不可欠です。また、イベントの開催を通じてコミュニティを育てていくことも重要になります。2024年は、以下のイベントを開催しました。まだ参加者は少ない状況ですが、地元の方々と協力しながら盛り上げていきたいと考えています。

【北海道開催】

7月 合宿形式で学ぶ、写真KJ法ワークショップ

【九州開催】

1月 ユーザーの「心の声」を聴く技術 ～インタビュー調査の基本～

2月 “DX”の原義と世界の先端企業の事例、およびDXを推進するアプリ等をデザインするための技術“OOUI”の基礎

3月 人間中心設計の基本と、あせらず進める堅実なアクセシビリティ改善計画



合宿形式で学ぶ、写真KJ法ワークショップの様子



ユーザーの「心の声」を聴く技術セミナーの様子

2025年は、さらに多くのイベントを開催する予定です。近隣にお住まいの方は、ぜひご参加ください。また、他の地域の方もぜひご参加いただき、活発な交流の場としていただければ幸いです。

東海支部

東海支部は2020年4月に関西支部に続く2つ目の地方支部として設立しました。名古屋を中心にHCDの基礎的な知識や実践的な学びを提供するイベントを企画・主催しています。

2024年度の活動

● イベント開催

東海支部では、設立からコロナ禍で延期となっていた対面セミナーをようやく開催することができました。8月には、「ユーザーの『心の声』を聴く技術 ～インタビュー調査の基本(ワークショップ付き)～」と題し、インタビュー調査技法の基礎を習得できるセミナーを実施。11月には、「ユーザー調査結果分析ワークショップ」と題し、インタビュー調査で得られたデータの分析方法を学ぶセミナーを開催いたしました。

両セミナーとも、座学に加え、演習やワークショップを組み合わせた実践的な内容で、東海地方はもとより、関西や関東からも多数の方にご参加いただきました。セミナー後の質疑応答も活発に行われ、おかげさまで、大変ご好評のうちに終えることができました。

※ それぞれの詳細は、以下からご覧いただけます

「ユーザーの『心の声』を聴く技術 ～インタビュー調査の基本(ワークショップ付き)～」開催レポート

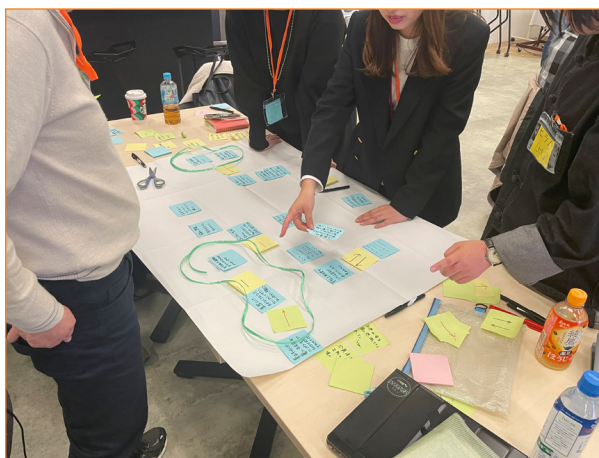
<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2157.html>

「ユーザー調査結果分析ワークショップ」開催レポート

<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2194.html>



「ユーザー調査結果分析ワークショップ」の様子



「ユーザー調査結果分析ワークショップ」の様子

✓ HCD 専門資格認定センター

HCD 専門資格認定センターは「人間中心設計専門家」と「人間中心設計スペシャリスト」の資格制度を運営しています。資格制度が始まって16年を迎えました。過去の認定者は合計で2,543名（2025年4月実績）となります。

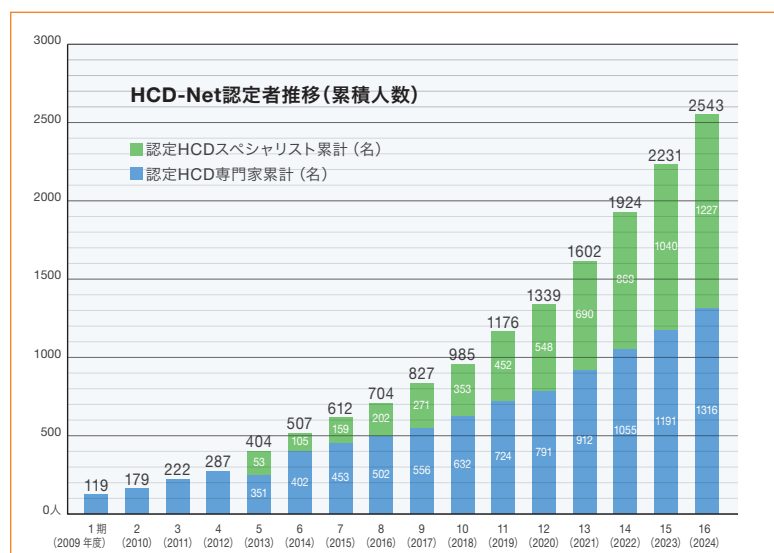
【専門資格 概要】

- ・実績にもとづく試験のため、スキルを客観的に証明できます。
- ・受験者にとっては、企業内で評価されやすい資格となります。
- ・企業にとっては、人材のスキルについて、第三者の客観的な保証を得ることができます。

2024年度の活動

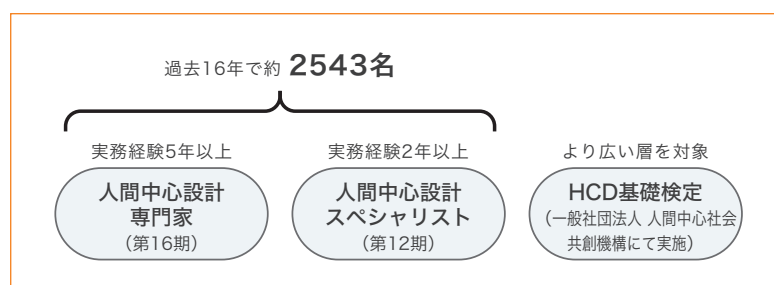
2024年度は「人間中心設計専門家」は第16期、「人間中心設計スペシャリスト」は第12期の認定試験を行いました。受験者数は年により若干の変動はあるものの伸長傾向を続けており、UXデザインやHCD分野において有用性のある資格としての存在感を確立しています。特に「人間中心設計スペシャリスト」が増加しています。UXデザインやHCD分野のベテランだけでなく、若手にも認知される資格になっています。

当センターでは、受験の申請書類の改善、説明会資料の改訂、更新審査の運用改善、業務のシステム化といった施策を進めています。また、受験についてカジュアルに相談できるイベントを多く設けることで、応募者の増加が顕著になっています。



資格の認定者数の推移（累積）

加えて当センターでは、未経験者や学生などより広い層の認定を目指した新制度を数年にわたり検討し、2022年度より「HCD基礎検定」を発足しました。「HCD基礎検定」は多数の受験者など運用が大規模になることが見込まれたため、既存のHCD-Netの体制だけでは受け止めきれないと判断し、連携団体として「一般社団法人 人間中心社会共創機構（略称 HCS共創機構）」を設立して運用に専念する体制としました。



資格の概観図



HCD 倫理規定検討ワーキンググループ

本ワーキンググループは、2020年に設置され、HCD-Netとして倫理問題にどのように向き合っていくかなどの議論を重ね、2022年4月1日に「Human Centered Design(HCD) 専門家 倫理規範第1版」を公開しました。その後はメディアや研究会等においてHCD関連の倫理に関する情報発信、研究発表、普及・啓蒙を推進しています。

・HCD 専門家 倫理規範 第1版 公開

<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-1879.html>

2024年度の活動

● HCD-Net フォーラム2024

2年ぶりに開催したHCD-Netフォーラムは、メインテーマを「デザインと倫理」として開催し、メイン企画、フォーラム企画、そして併催した研究発表会などにおいて、倫理に関する話題に注目したイベントとなりました。メイン企画は、「ダークパターン」について法律の観点から水野祐(弁護士)、企業の取り組みを花井陽子(KDDI)から話題提供いただき、HCD-Net 副理事長:長谷川敦士、井登友一とともに議論しました。

前編:<https://designing.jp/hcd-net-hasegawa-mizuno>

後編:<https://designing.jp/hcd-net-hanai-inobori>

● イベント開催

「“HCDと倫理”を考える」とうたったイベントを2回開催しました。両回ともに大盛況で、今後もシリーズ企画として開催していく予定です。

・第1回タイトル:仏教から考える、これからのデザイナーが持つべき倫理と責任

開催日時:2024年7月31日(水) 19:00-21:00

講演者:川島俊之(高野山真言宗高福院住職、元ベンチャーキャピタリスト)

・第2回タイトル:プロフェッショナル倫理を忍者の精神から考える

開催日時:2024年9月5日(木) 19:00-21:00

講演者:山田雄司(三重大学国際忍者研究センター)

● ダークパターン研究会 SIG の設立

2025年1月にダークパターン研究会 SIG を9名の発起人(主査:山本郁也)にて申請し、活動を開始しました。サブグループを設定し、参加メンバーを募集し、本WGと連携して活動を推進していきます。



「HCD-Net フォーラム2024」の様子(撮影:須古恵)



「プロフェッショナル倫理を忍者の精神から考える」の様子

ウェブワーキンググループ

ウェブワーキンググループは、事務局と密に連携し、HCD-Netのウェブサイトおよびソーシャルメディアの運用を統括しています。ITやウェブサイト制作に豊かな知見を持つメンバーが参加し、ウェブサイトやソーシャルメディアの全体最適化を進めています。ウェブサイトのスマートフォン対応、レガシー化したインフラのモダン環境への移行、Slack導入などをこれまでの数年間で進めてきました。

ウェブワーキンググループはこれまで運用の都合で独立組織となっておりましたが、さらなる発信力の強化と全体最適を目指し、近日に広報社会化事業部へ統合する予定です。

2024年度の活動

HCD-Netの公式ウェブサイトは、前回のリニューアルから5年以上が経過しており、サイト構造が現在のHCD-Netの運用に合わなくなってきたことや、CMS(コンテンツ管理システム)の老朽化が課題になっています。2024年度は、ウェブワーキンググループが推進役となり、ウェブサイトの基盤システムの入れ替え、サイト構造の刷新を進めました。リニューアルの公開は2025年春の予定です。



HCD-Net公式ウェブサイト(2025年3月時点)

リニューアル公開を予定している新しいウェブサイトでは、以下の方針でプロジェクトを進めています。

1. これまでのCMSおよびインフラ環境は、運用に求められるIT知識が高度で、事務局およびウェブワーキンググループの人員体制では対応しきれなかったことがありました。新しいCMSではクラウドサービスへ完全移行し、インフラ環境の自営をなくします。
2. これまでのCMSは、ウェブサイトの更新作業において、CMSの機能を理解していないと作業できないことがありました。今後はより操作感のやさしいクラウドサービスへ移行し、専門知識がなくとも誰でもウェブサイトを更新できるようにします。
3. HCD-Netのウェブサイトには、HCDの資料として価値が高いコラムが多く蓄積されています。しかし、あまりアクセスを集めておりませんでした。コラムをはじめとした「読み物」コンテンツは、デザインコミュニティがすでに存在する外部サービスに掲載場所を設け、より広く読まれるようにします。



ピックアップイベント

● 組織の中に「好き」をつくる —ユーザーだけではなく、組織としての“人間”中心設計の捉え方—

2024年7月26日(金) 15:00-17:30

主催: 広報社会化事業部

社内の「好き」を醸成し社員経験(EX)を高める組織HCDを提案する講演です。従来のユーザー中心設計が製品利用者に注目するのに対し、社員も含めた組織全体での“好き”の創出をテーマに据えます。従業員を“人間”中心に捉え、EX(従業員体験)重視の潮流を踏まえた組織変革の事例をもとに、hyphenate社とNRIが共同開発した「5つの枠組み・30要素」からなるワークツールを用いて自社の組織文化を分析・改善しました。

※ イベント内容は以下からご覧いただけます

<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2149.html>



● 合宿形式で学ぶ、写真KJ法ワークショップ

2024年7月10日(水)、11日(木)、12日(金)の3日間

主催: 関西支部

2泊3日の合宿形式で実施する写真KJ法ワークショップです。川喜田二郎の提唱するKJ法を基に、通常の短時間セッションでは達成できない情報統合プロセスを徹底的に体験します。言葉化が難しい情報も「写真」を用いて扱うことで異質なデータを融合し、本質的なアイデア創出を学びました。

※ イベント内容とレポートは以下からご覧いただけます

<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2135.html>

<https://hakomachi.com/diary3/2024/07/kj2/>

● ASEANにおけるUXリサーチ事例

2024年4月3日(水) 16:00-18:00

主催: 関西支部

少子高齢化で日本市場が縮小する中、海外進出企業向けにASEAN地域のUXリサーチ事例を学ぶセミナーです。Kadence International Thailand 社長・濱野英和(HCD-Net 関西支部長)が講師を務め、タイなど東南アジア市場での観察調査やインタビュー、ペルソナ/カスタマージャーニー作成など多様な手法をケーススタディで解説しました。

※ イベント内容は以下からご覧いただけます

<https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-2110.html>





イベント一覧 1/2

2024年 4月

ASEANにおけるUXリサーチ事例

4月3日(水)

演野英和(Kadence International Thailand)

対談: 水本徹(HCD-Net副理事長)

主催: 関西支部

5月

委員会設立10周年記念イベント『利用時品質の最前線』

5月22日(水)

政府調達における利用時品質とガイドライン改訂の動向について

大橋正司(デジタル庁)

ステークホルダーを拡張した

新しい利用時品質モデル

福住伸一(理化学研究所)

委員会活動10年間の振り返りと

次の10年に向けて【パネルディスカッション】

パネリスト: 平沢 尚毅氏(SIG創設メンバー、SIG元主席)

鱗原 晴彦氏(ビジネス支援事業部顧問、SIG創設メンバー)

山口 恒久氏(HCD-Net理事、ビジネス支援事業部長、SIG元副主席)

月田 遼郎氏(元委員長)

皿谷 知之氏(HCD-Net理事、前委員長)

岡本 鉄兵氏(委員長)

モデレーター: 篠原 稔和氏(HCD-Net理事長、SIG創設メンバー)

主催: ビジネス支援事業部

6月

2024年度春季HCD研究発表会

6月8日(土)

西野直樹(中央大学大学院)

飯尾淳(中央大学)

松浦啓(東京工業大学)

伊藤潤(東京都立産業技術大学院大学)

中谷桃子(東京工業大学)

橋本英(中央大学)

橋本怜奈(中央大学)

渡辺佳祐(中央大学)

井原雅行(理化学研究所)

徳永弘子(理化学研究所)

村上宏樹(白川病院)

竹下一樹(白川病院)

古賀昭彦(理化学研究所/帝京大学)

行平崇(理化学研究所/帝京大学)

久野真矢(理化学研究所/県立広島大学)

前田亮一(理化学研究所/UDワーク)

猿渡進平(理化学研究所/白川病院)

大賀咲希(白川病院)

齊藤駿(東京工業大学)

杉原太郎(東京工業大学)

佐藤愛夏(芝浦工業大学)

井上陽斗(芝浦工業大学)

小林ゆに(芝浦工業大学)

吉武良治(芝浦工業大学)

伊地知大輔(株式会社エイト日本技術開発)

村松萌生(株式会社エイト日本技術開発)

森下洋平(一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会)

野島雄(一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会)

本村沙(株式会社リコウ)

林田綺菜(株式会社リコウ)

寺村信介(株式会社リコウ)

近藤朗(鹿児島女子短期大学)

村上昌志(株式会社ネットリソースマネジメント)

田中貴之(ニッセイ情報テクノロジー株式会社)

佐々木俊弥(株式会社マネーフォワード)

齋藤綾乃(株式会社マネーフォワード)

白石一郎(Sasuke Financial Lab株式会社)

市橋祐輝(Sasuke Financial Lab株式会社)

奥田真史(株式会社アートテクノロジー)

山田知照(株式会社NTTデータ/東京都立産業技術大学院大学)

鈴木直人(株式会社NTTデータ)

川本夏海(株式会社NTTデータ)

杉浦彰彦(KDDI総合研究所)

上原志織(株式会社野村総合研究所)

須藤修(中央大学)

森山明宏(ユーリカ株式会社)

伊東昌子(成城大学経済研究所)

近藤恭代(LINEヤフー株式会社)

指田直毅(富士通株式会社)

林哲也(ユニー株式会社)

福山朋子(株式会社インテック)

和井田理科(株式会社JVCケンウッド・デザイン)

水本徹(HCD-Net副理事長)

伊藤由莉

和氣早苗(同志社女子大学)

加藤遥己(名古屋国際工科専門職大学)

宮崎陽路(名古屋国際工科専門職大学)

野呂僚(名古屋国際工科専門職大学)

小林正(名古屋国際工科専門職大学)

主催: 研究事業部

ワイワイしましょ! 人間中心設計の専門家・スペシャリストや会員とのオンライン交流会〜HCD-Net新歓イベント〜

6月28日(金)

主催: 教育事業部

7月

合宿形式で学ぶ、写真KJ法ワークショップ

7月10日(水) - 12日(金)

問題提起とフィールドワークのしかた

水本徹(HCD-Net副理事長庁)

地域の課題について

仙石智義(南砺市地域交流まちづくりセンター)

黒澤卓矢(上川大豊高造株式会社)

渾沌をして語らしめる

KJ法を中核とするW型問題解決学

國藤進(北陸先端科学技術大学院大学)

主催: 関西支部

HCD導入パターン委員会活動説明会

7月16日(火)

委員の語る委員会活動体験談

近藤恭代(LINEヤフー株式会社)

指田直毅(富士通株式会社)

酒井美彩都(TDCソフト株式会社)

寺村信介

福山朋子(株式会社インテック)

森山明宏(ユーリカ株式会社) 主査

和井田理科(株式会社JVCケンウッド・デザイン)

主催: ビジネス支援事業部

組織の中に「好き」をつくる 〜ユーザーだけではない、組織としての ”人間”中心設計の捉え方-

7月26日(金)

人間中心設計の捉え方と、

推進企業に求められる5つの要素

江戸ゆり夏(株式会社野村総合研究所)

企業やその社員としての力を

高めるための引き出し

宮崎了(hyphenate株式会社)

主催: 広報社会化事業部

ユニバーサルデザイン／インクルーシブ デザイン事例講演会(2024 WEST) 〜「誰一人取り残さない」製品・サービス 開発を目指して〜

7月31日(水)

軽度認知症向けスケジュールアプリ

‘yottey(ヨッテイ)」の開発と今後の広がりが

吉岡英俊(株式会社ソフトデバイス)

フォントを通じた「情報コミュニケーションのユニバーサルデザイン実現」を目指して

山浦聡(株式会社モリサワ)

HOWS PARKをハブとして取り組みを

はじめる、コクヨのインクルーシブデザイン

藤木武史(コクヨ株式会社)

主催: 広報社会化事業部

SQuaRE解説セミナー 第1回 SQuaREの全体像と品質モデル (ISO 25002)

7月31日(水)

福住伸一(理化学研究所)

込山俊博(日本電気株式会社)

主催: ビジネス支援事業部

“HCD と倫理”を考える #1 仏教から考える、これからのデザイナーが 持つべき倫理と責任

7月31日(水)

川島俊之(高野山真言宗高福院)

主催: HCD倫理規定検討ワーキンググループ

8月

ユーザーの「心の声」を聴く技術 〜インタビュー調査の基本 (ワークショップ付き)〜

8月2日(金)

奥泉直子

主催: 広報社会化事業部

大学と地域・企業との 連携プロジェクトの進め方 〜PBLで深く学びとイノベーション〜

8月4日(日)

転んでもタダでは起きない:
リサーチマインドと実践の融合としての
プロジェクト

山縣正幸(近畿大学)

アートと社会の架け橋:

成安造形大学の共創プロジェクト

田口真太郎(成安造形大学)

デザインで社会をより良くする:

大阪芸術大学の取り組みと有志による

共創プロジェクト

福武徹(大阪芸術大学)

主催: 関西支部

SQuaRE解説セミナー 第2回 製品品質モデル(ISO 25010)

8月19日(月)

込山俊博(日本電気株式会社)

主催: ビジネス支援事業部

2024年度UXデザイン連続セミナー

8月24日(土)、9月8日(日)、9月28日(土)、

10月12日(土)、10月28日(月)、11月9日(土)

井登友一(株式会社インフォバーン)

主催: 教育事業部

ユニバーサルデザイン／インクルーシブ デザイン事例講演会(2024 EAST) 〜「誰一人取り残さない」製品・サービス 開発を目指して〜

8月30日(日)

コクヨが取り組みを初めた

インクルーシブデザイン型商品開発

藤木武史(コクヨ株式会社)

養電機におけるユニバーサルデザインの

取り組みと教育

山崎友賀(三菱電機株式会社)

深野さゆり(三菱電機株式会社)

齋藤奈臣(三菱電機株式会社)

NECのユニバーサルデザイン

これまでとこれから

松田崇(日本電気株式会社)

川嶋一広(日本電気株式会社)

誰もが自分らしく、感動を分かち合える

未来のために

西川文(ユニーグループ株式会社)

主催: 広報社会化事業部

9月

“HCD と倫理”を考える #2 プロフェッショナル倫理を 忍者の精神から考える

9月5日(木)

山田雄司(三重大学国際忍者研究センター)

主催: HCD倫理規定検討ワーキンググループ

UIデザインプロセスの課題と対策 〜UIデザインをリードするための 実践的アプローチ〜

9月17日(火)

島津製作所におけるUIデザイン開発の実態:

課題と現場の工夫

伊藤由莉(株式会社島津製作所)

片田汰架(株式会社島津製作所)

人間中心設計のためのデザインシステムの

構造と運用について

小川貴生(パナソニック株式会社)

インハウスのUIデザイナーにみる

デザイン行為と「デザイン知」をめぐる

葛藤と展望

辻村和正(株式会社インフォバーン)

情報設計からのデザインアプローチ

〜ユーザーの声を聞くよりも、

もっととデータの声を聞け〜

森田雄(株式会社ツルカス)

アドバンスド OOU! 一少し深い理論と実践

上野学(ソシオメディア株式会社)

主催: 広報社会化事業部

SQuaRE解説セミナー 第3回 利用時品質モデル(ISO/IEC 25019)

9月27日(金)

福住伸一(理化学研究所)

主催: ビジネス支援事業部

HCD-Net関西フォーラム2024 「おもてなしと多様性のデザイン」

9月29日(日)

観察と対話から生まれる、
インクルーシブデザイン【ワークショップ】

藤木武史(コクヨ株式会社)

多様性と心くばり

久保雅義(京都工業繊維大学名誉教授/国際ユニバーサルデザイン協議会理事)

日本の公共サインの課題

〜外国人のおもてなしを考えるために〜

岩田一成(聖心女子大学)

多様な人の経験がアイデアのヒントになる

インクルーシブデザインの活動

川合俊輔(デザインスタジオCULUMU)

主催: 関西支部

10月

ユーザビリティテストはじめての一步 入門編

10月18日(金)

和井田理科(株式会社JVCケンウッド・デザイン)
アシスタント: 春原一恵(エアリアンアヴァンシス株式会社)

主催: 教育事業部

11月

現場でできるユーザビリティテスト 演習編

11月2日(土)

下郷雅子(株式会社リコウ)

主催: 教育事業部

HCD-Net AWARD 2023 最優秀賞 「ボードゲームを活用したUXリサーチ 教育ワークショップの開発」 体験型ワークショップ

11月4日(月)

松園美帆(リサーチカンファレンス)

ミヤザキユウ(リサーチカンファレンス)

野村尊(リサーチカンファレンス)

仙田真郷(リサーチカンファレンス)

主催: 広報社会化事業部

2024年度 認定人間中心設計専門家・ スペシャリスト受験を目指す方向け 「オンライン相談会(11/6開催回)」

11月6日(水)

主催: HCD専門資格認定センター



イベント一覧 2/2

90分で価値探索！ 生成AIを活用した高速KA法 ワークショップ

11月8日(金)

米山弘恭(株式会社はてな)
コーディネーター：井登友一(株式会社インフォバーン)
主催：教育事業部

HCD認定受験者説明会

11月13日(水)

主催：HCD専門資格認定センター

HCDコンピタンス知識編 「専門知識に基づく評価・概論」

11月19日(火)

伊藤泰久(株式会社DNTI)
主催：教育事業部

2024年度 認定人間中心設計専門家・ スペシャリスト受験を目指す方向け 「オンライン相談会(11/20開催回)」

11月20日(水)

主催：HCD専門資格認定センター

ユーザー調査結果分析ワークショップ

11月22日(金)

水本徹(HCD-Net副理事長／株式会社島津製作所)
主催：東海支部

EdgeTech+ 2024カンファレンス

11月22日(金)

仮説検証ブートキャンプ
～「仮説検証の知識習得」から
「実践形式フィールドワーク」を経た取組みの
成果発表～
【企画プレゼンテーション】
全体監修：篠原稔和(HCD-Net理事長／ソシオメディア株式会社)
AI活用時代に必須の仮説検証ノウハウ人材育成
～仮説検証ブートキャンプを通じた
人間中心デザインノウハウの獲得～
【パネルディスカッション】
パネリスト：篠原稔和(HCD-Net理事長／ソシオメディア株式会社)
主催：一般社団法人 組込みシステム技術協会
共催：HCD-Net

90分で価値探索！生成AIを活用した 高速KA法ワークショップ(第2回)

11月29日(金)

米山弘恭(株式会社はてな)
コーディネーター：井登友一(株式会社インフォバーン)
主催：教育事業部

2024冬季HCD研究発表会

11月30日(土) - 12月1日(日)

河野義広(東京情報大学)
西村歩(株式会社MIMIGURI／東京大学大学院)
塚常健太(南山理科大学)
照井レナ(小樽商科大学大学院)
平沢尚毅(小樽商科大学)
小林ゆに(芝浦工業大学)
井上陽斗(芝浦工業大学)
吉武良治(芝浦工業大学)
樋口曉世(慶應義塾大学大学院)
村上英治(アズビル金門株式会社／慶應義塾大学大学院)
高橋大志(アズビル金門株式会社／慶應義塾大学大学院)
西山裕二(ソニーグループ株式会社)
坂部出(ソニーグループ株式会社)
指澤竜也(TOPPANエッジ株式会社)
清水直宏(TOPPANエッジ株式会社)
前田碧(bak21g)
渋谷崇史(北海道大学大学院)
山崎和彦(Xデザイン研究所／筑波大学大学院ソーシャルクリエイティブ研究所)
山田菊子(株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース)
相沢直人(ユーズム株式会社)
宮川愛由(京都大学経営管理大学院)
飛田大輔(国土交通省)
坪井百花(国土交通省)
前山駿太郎(国土交通省)
中村雄貴(国土交通省)
水本徹(HCD-Net)
八木真理奈(慶應義塾大学大学院)
周世俊(慶應義塾大学大学院)
張迎(慶應義塾大学大学院)
安藤昌也(千葉工業大学)
齋藤亨(トヨタ自動車株式会社)
吉田森彦(トヨタ自動車株式会社)
小林英樹(トヨタ自動車株式会社)
松永圭吾(富士通株式会社)
坂野一郎(富士通株式会社)
輪島蘭理(富士通株式会社)
別府拓也(元千葉工業大学 附属研究所)
伊藤綾音(芝浦工業大学)
菊地剛正(三菱UFJ信託銀行株式会社)
山本信幸(シナジーマーケティング株式会社)
仲谷尚郁(三菱重工業株式会社)
林秀紀(桜美林大学)
主催：研究事業部

HCD-Netフォーラム2024

11月30日(土) - 12月1日(日)

20周年に向けた
「HCD-Netの未来」への宣言
篠原稔和(HCD-Net理事長／ソシオメディア株式会社)
井登友一(株式会社インフォバーン)
山田菊子(株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース)
羽山祥樹(日本ウェブデザイン株式会社)
山口恒久(株式会社明電舎)
河野泉(神戸親和大学)
加藤公一(ブラザー工業株式会社)

水本徹(HCD-Net副理事長／株式会社島津製作所)
脇阪善則(パナソニック株式会社)
システミックデザインの手法：アクターズマップ
峯村 昇吾(造形構想株式会社)
デザインと倫理・基調セッション
話題提供：
水野祐(弁護士)
長谷川敦士(株式会社コンセプト)
花井陽子(KDDI株式会社)
パネルディスカッション：
モデレーター：井登友一(株式会社インフォバーン)
インクルーシブデザイン体験ワークショップ：
視覚障害リードユーザーとの共創
タキザワケイタ(PPLAYWORKS株式会社)
HCD-Net AWARD受賞者セッション
優秀賞：
迷わないショッピングモールのサインデザイン
占部雅(NTTテクノクロス株式会社)
大野健彦(NTTテクノクロス株式会社)
優秀賞：
学生を対象としたUXとウェブアクセシビリティ
の基礎講座実施によるESG活動
森野絵維子(株式会社SmarTHR)
審査員特別賞：
HCD人材強化と社内浸透のための
仕組みづくり
寺山晶子(ソニーグループ株式会社)
高校生からのメッセージ：
山口恒久(株式会社明電舎)
長岡仰太郎(見學学園中高教諭)
点字ブロックを使ったゲームで体感！
インクルーシブ・シンキングを
インストールしよう
小坂正史(富士通株式会社)
デザインと倫理を考える
谷口恒(株式会社ZMP)
mayu nakamura(Ustwo Tokyo K.K.)
神谷壮真(株式会社グッドパッチ)
亀田重幸(ディップ株式会社)
國光俊樹(株式会社Algomatic)
入江真(株式会社野村総合研究所)
モデレーター：秋野比彩美(株式会社グッドパッチ)
主催：HCD-Net

12月

エキスパートレビュー ～ユーザービリティの専門知識に基づく 評価を学ぶ～

12月10日(火)、12月21日(土)

伊藤泰久(株式会社DNTI)
主催：教育事業部

HCD-Net賛助会員の集い

12月23日(月)

ファシリテーション：水本徹(HCD-Net副理事長)
主催：広報社会化事業部

2025年 1月

EdgeTech+ 2024オンデマンド配信

1月6日(月) - 31日(金)

仮説検証ブートキャンプ
～「仮説検証の知識習得」から「実践形式
フィールドワーク」を経た取組みの成果発表～
【企画プレゼンテーション】
全体監修：篠原稔和(HCD-Net理事長／ソシオメディア株式会社)
主催：一般社団法人 組込みシステム技術協会
共催：HCD-Net

2月

～社会実装の推進に向けた探求～ HCD事例発表会 + 人間工学会アーゴ デザイン部会 Future Experience (FX)フォーラム

2月28日(金)

血管撮影システム「Trinias」のコンソール開発
および身体負荷計測による効果測定
市岡聖菜(株式会社島津製作所)
操作ログに基づいた自社医療機器ユーザーの
観察・インタビューから得られた知見
大淵仁史(シスメックス株式会社)
健康増進プラットフォーム「SUPOFULL(サポ
フル)」の開発と課題解決アプローチおよび
効果測定
吉見邦子(株式会社島津製作所)
自動車関連機器メーカーにおけるBtoB向け
新規SaaS事業創出とHCD
小林広樹(パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社)
感染症マネジメント支援システム
「ExpertTWIN」の企画・開発における
KJ法の活用
水本徹(株式会社島津製作所)
ビジョンの社会実装に向けた挑戦
郷健太郎(山梨大学)
巨大IPを利用した人を基軸とした
造形アイデア創出支援についての一考察
細田彰一(白根工業大学)
ローカルデザインとシステムデザインによる
ビジョンの社会実装
徳田彩(株式会社Muture／Xデザイン学校)
ビジョンを社会実装するための文化の活用
山崎和彦(株式会社Xデザイン研究所／筑波大学大学院ソーシャルクリエイティブ研究)
主催：広報社会化事業部

3月

HCD実践者向けワークショップで学ぶ ワークショップデザインセミナー

3月1日(土)

上林昭(ワークショップデザイナーユニット グリサン／東京都立産業技術大学院大学)
サブファシリテーター：山田正洋
グラフィックレコーダー：高橋英里
主催：教育事業部

決算報告

2024年度 活動計算書（その他事業がない場合）

科 目	金 額 (円)	小 計・合 計 (円)
【A】 経 常 収 益		
1 受取会費		
正会員受取会費	15,093,000	
学生会員受取会費	34,000	
賛助会員受取会費	4,480,000	19,607,000
2 受取寄附金	0	0
3 受取助成金等	0	0
4 事業収益		
調査・研究事業収益	1,422,500	
人材育成事業収益	4,527,080	
普及・啓発事業収益	4,158,000	
開発事業収益	942,600	
規格化・認証事業収益	14,573,200	
国際事業収益	0	25,623,380
5 その他の収益		
受取利息	40,881	
雑収入	6,424	47,305
経 常 収 益 計		45,277,685
【B】 経 常 費 用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	3,990,400	
法定福利費	0	
福利厚生費	0	3,990,400
(2) その他経費		
外注費	1,262,214	
運営費	1,866,018	
支払手数料	584,745	
広報費	220,000	
旅費交通費	1,313,222	
通信運搬費	405,260	
消耗品費	600,131	
印刷製本費	210,504	
会議費	5,940	
諸謝金	8,236,700	
租税公課	1,164,508	
図書費	0	
雑費	110,000	15,979,242
事業費計		19,969,642
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	7,527,690	
法定福利費	1,025,231	
福利厚生費	16,408	8,569,329
(2) その他経費		
支払手数料	373,193	
会議費	137,006	
旅費交通費	958,125	
通信運搬費	1,772,458	
消耗品費	226,164	
印刷製本費	7,224	
運営費	56,136	
賃借料	10,560	
諸謝金	0	
租税公課	6,552	
委託費	2,701,225	
雑費	971,748	7,220,391
管理費計		15,789,720
経 常 費 用 計		35,759,362
当 期 経 常 増 減 額 【A】-【B】・・・①		9,518,323
【C】 経 常 外 収 益		
	0	
経 常 外 収 益 計		0
【D】 経 常 外 費 用		
	0	
経 常 外 費 用 計		0
当 期 経 常 外 増 減 額 【C】-【D】・・・②		0
税 引 前 当 期 正 味 財 産 増 減 額 ①+②・・・③		9,518,323
法人税、住民税及び事業税・・・④		1,238,000
前期繰越正味財産額・・・⑤		56,564,730
次 期 繰 越 正 味 財 産 額 ③-④+⑤		64,845,053

2024年度 計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準 によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
棚卸資産は個別法によって評価しています。
- (2) 消費税等の会計処理
税込処理を行なっています。

2. 事業別損益の状況

(単位：円)

科 目	調査・研究 事業	人材育成 事業	普及・啓発 事業	開発事業	規格化・認証 事業	国際事業	事業部門計	管理部門	合 計
I 経常収益									
1. 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	19,607,000	19,607,000
2. 受取寄附金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. 受取助成金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 事業収益	1,392,500	4,527,080	4,158,000	942,600	14,573,200	0	25,593,380	0	25,593,380
5. その他収益	30,000	0	0	0	0	0	30,000	47,305	77,305
経常収益計	1,422,500	4,527,080	4,158,000	942,600	14,573,200	0	25,623,380	19,654,305	45,277,685
II 経常費用									
(1) 人件費									
給料手当	302,475	12,000	0	0	3,675,925	0	3,990,400	7,527,690	11,518,090
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	1,025,231	1,025,231
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	16,408	16,408
人件費計	302,475	12,000	0	0	3,675,925	0	3,990,400	8,569,329	12,559,729
(2) その他経費									
外注費	0	288,090	555,500	165,000	253,624	0	1,262,214	0	1,262,214
運営費	467,722	63,810	1,252,501	81,985	0	0	1,866,018	56,136	1,922,154
支払手数料	96,495	132,204	282,783	73,263	0	0	584,745	373,193	957,938
広報費	0	0	45,000	175,000	0	0	220,000	0	220,000
旅費交通費	0	443,706	758,046	111,470	0	0	1,313,222	958,125	2,271,347
通信運搬費	34,588	23,375	157,168	0	190,129	0	405,260	1,772,458	2,177,718
消耗品費	1,760	4,324	137,161	0	456,886	0	600,131	226,164	826,295
印刷製本費	17,481	0	1,150	26,373	165,500	0	210,504	7,224	217,728
会議費	0	0	0	5,940	0	0	5,940	137,006	142,946
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	10,560	10,560
諸謝金	40,000	2,605,476	1,687,812	545,713	3,357,699	0	8,236,700	0	8,236,700
租税公課	64,648	205,743	188,969	42,838	1,900,310	0	2,402,508	6,552	2,409,060
図書費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄付金支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託費	0	0	0	0	0	0	0	2,701,225	2,701,225
雑費	0	0	110,000	0	0	0	110,000	971,748	1,081,748
その他経費計	722,694	3,766,728	5,176,090	1,227,582	6,324,148	0	17,217,242	7,220,391	24,437,633
経常費用計	1,025,169	3,778,728	5,176,090	1,227,582	10,000,073	0	21,207,642	15,789,720	36,997,362
当期経常増減額	397,331	748,352	△1,018,090	△284,982	4,573,127	0	4,415,738	3,864,585	8,280,323

3. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・事業費と管理費の按分方法

各事業の経費及び事業費と管理費に共通する経費のうち、事務局員の給料手当、交通費については従事割合に基づき按分しています。

2024年度 貸借対照表

(単位：円)

科 目	金 額	小 計・合 計
【A】資 産 の 部		
1 流動資産		
現金預金	68,592,250	
前払金	76,248	
未収金	4,303,112	
立替金	22,557	
貯蔵品	23,978	
流動資産合計・・・①		73,018,145
2 固定資産		
(1) 有形固定資産	0	
(2) 無形固定資産	0	
(3) 投資その他の資産	0	
固定資産合計・・・②		0
【A】資 産 合 計 ①+②		73,018,145
【B-1】負 債 の 部		
1 流動負債		
未払金	7,000,541	
前受金	1,070,000	
預り金	102,551	
流動負債合計・・・③		8,173,092
2 固定負債	0	
固定負債合計・・・④		0
負 債 合 計 ③+④		8,173,092
【B-2】正 味 財 産 の 部		
前期繰越正味財産額	56,564,730	
当期正味財産増減額	8,280,323	
正 味 財 産 合 計		64,845,053
【B】負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 【B-1】+【B-2】		73,018,145

2024年度 財産目録

(単位：円)

科 目	金 額	小 計	合 計
【A】資 産 の 部			
1 流動資産			
現金預金			
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行渋谷支店	68,201,196		
Paypal 口座	207,500		
普通預金 三井住友銀行神田支店	183,554	68,592,250	
未収金			
規格化・認証事業未収金	4,303,112	4,303,112	
前払金			
GMO サーバーレンタル料 2025 年 4 月利用分	8,675		
GMO MICROSOFT365 2025 年 4 月利用分	1,573		
契約書リーガルチェック費用	66,000	76,248	
立替金			
育休事務局員住民税特別徴収分立替	22,557	22,557	
貯蔵品			
総合パンフレット	13,351		
機構誌	10,627	23,978	
流動資産合計・・・①			73,018,145
2 固定資産			
(1) 有形固定資産		0	
(2) 無形固定資産		0	
(3) 投資その他の資産		0	
固定資産合計・・・②			0
【A】資 産 合 計 ①+②			73,018,145
【B-1】負 債 の 部			
1 流動負債			
未払金			
3 月分事務局給与	874,847		
活動謝金	2,720,000		
認定証作成・発送費	517,980		
業務委託費	126,225		
未払消費税等	668,300		
未払法人税等	1,238,000		
諸口	855,189	7,000,541	
前受金			
2025 年正会員費	48,000		
2025 年賛助会員費	80,000		
2025 年・2026 年資格維持費	942,000	1,070,000	
預り金			
源泉所得税	102,551		
住民税	0	102,551	
流動負債合計・・・③			8,173,092
2 固定負債			
	0	0	
固定負債合計・・・④			0
【B-1】負 債 合 計 ③+④			8,173,092
【B-2】正 味 財 産 合 計 【A】-【B-1】			64,845,053

役員一覧

理事長：	篠原 稔和（ソシオメディア株式会社）	監事：	早川 誠二（HCD YOROZU Consulting） 山岡 俊樹（和歌山大学）
副理事長：	井登 友一（株式会社インフォバーン） 長谷川 敦士（株式会社コンセント） 水本 徹（株式会社島津製作所） 吉武 良治（芝浦工業大学）	【事務局】	
		事務長：	中村 めぐみ
		認定センター事務長：	松本 恭幸
		財務担当：	篠原 稔和（理事長）
		ウェブサイト担当：	羽山 祥樹
理事：	飯尾 淳（中央大学） 加藤 公一（ブラザー工業株式会社） 河野 泉（神戸親和大学） 皿谷 知之（株式会社ぶらすU） 羽山 祥樹（日本ウェブデザイン株式会社） 森山 明宏（ユーリカ株式会社） 山口 恒久（株式会社明電舎） 山田 菊子（株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース） 脇阪 善則（パナソニック株式会社）		

賛助会員一覧 五十音順 （2025年3月31日現在）

アシアル株式会社	セイコーエプソン株式会社
アビームコンサルティング株式会社	ソニーグループ株式会社
株式会社アルカディット	株式会社ツルカメ
株式会社イセトー	TDCソフト株式会社
市光工業株式会社	株式会社デンソー
株式会社イード	株式会社電通総研
株式会社インクワイア	株式会社電通デジタル
株式会社インパス	東京海上日動システムズ株式会社
インフォコム株式会社	東京デザインプレックス研究所
SCSK 株式会社	TOPPAN エッジ株式会社
エスディーテック株式会社	日鉄ソリューションズ株式会社
NECソリューションイノベータ株式会社	日鉄日立システムソリューションズ株式会社
株式会社NTTアド	株式会社野村総合研究所
株式会社NTTデータ	株式会社博報堂アイ・スタジオ
株式会社NTTデータMSE	株式会社パウワウ
沖コンサルティングソリューションズ株式会社	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
株式会社オネスト	フェンリル株式会社
オムロン ヘルスケア株式会社	富士ソフト株式会社
株式会社クボタ	富士フィルム株式会社
コニカミノルタ株式会社	ブラザー工業株式会社
株式会社コンセント	株式会社フレンセル
サイフォン合同会社	株式会社ミツエーリンクス
サンデン株式会社	三菱総研 DCS 株式会社
株式会社 JVC ケンウッド・デザイン	三菱電機株式会社
シスメックス株式会社	村田機械株式会社
株式会社シナプス	株式会社 U'eyes Design
株式会社島津製作所	横河計測株式会社
一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会	株式会社リーサ
スパイスファクトリー株式会社	理想科学工業株式会社

アニュアルレポート実行委員会
 編集長： 脇阪 善則 （パナソニック株式会社）
 編集： 助松 裕一 （株式会社荏原製作所）
 森田 雄 （株式会社ツルカメ）
 佐伯 幸治 （さらなる）
 デザイン： 竹内 公啓 （PUBLIX DESIGN）

特定非営利活動法人（NPO法人） 人間中心設計推進機構 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂4-2-12-213 ソシオメディア株式会社内

e-mail: secretariat@hcdnet.org

website: <https://www.hcdnet.org>